

教師ノート

日付	2014年 8月24日
単元	基本的な教理・1
テーマ	三位一体
タイトル	神について -三位一体の神さま-
テキスト	申命記6:4他
参照箇所	イザヤ44:6-17、45:5・6、マタイ3:16-17、16:16、ヨハネ6:27、20:28、使徒5:3・4、Iコリント3:16、8:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	申命記6:4 or 詩篇145:3 or IIコリント13:13
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3巻1題12課
メモ(情報・例話など)	
※今回の教師ノートは、メッセージ例です。子どもたちと一緒に、聖書を開きながら、三位一体の真理を発見します。	
□導入	
今日は、みんなといっしょに聖書を開いて、神さまのことを楽しく学びましょう！とっても不思議なことが発見できるよ！	
□ポイント1 神さまはただお一人です	
◇早速3人のお友だちに聖書を開いて読んでもらいましょう。これらの聖句から、どんなことがわかりますか？(3人指名し、申命記6:4、イザヤ45:5-6、Iコリント8:4をそれぞれ読んでもらいます)。	
→神さまは、ただおひとりで、他にはいないということですね。神さまはただおひとりです。私たちが信じている、聖書の神さま以外の神々は神ではないのです。他の宗教の神々も、マンガに出てくる神も、神とは呼ばれていますが、本当の神さまではありません。日本人は何でも「神」と呼んでしまいます。木や石を守り神として拝んだりします。イワシの頭も信じればありがたい神さまに思えるという言葉さえあります。マイケル・ジョーダンはあまりにもバスケットボールが上手だったので「バスケットボールの神さま」と呼ばれましたが、本当は神さまではありません。本当の神さまは、ただひとり、聖書の神さまだけです。ほかにはいません。	
□ポイント2 イエスさまは神さまです	
1. 聖書を読んで、神さまは、ただおひとりで、他にはいないということが分かりましたね。では、その神さまとはどなたでしょう。	
◇ヨハネ福音書20:28を開いてください。トマスは、イエスさまのことを誰だと言っていますか？	
→「私の主、私の神」と言いましたね。そうです、みんなも知っているとおりに、イエスさまこそが、ただひとりの神さまですね。	
◇では、マタイ16:15-16を読みましょう。ペテロはイエスさまのことを誰だと言いましたか？	
→「あなたは、生ける神の御子キリストです」と言いました。	
2. イエスさまが神の子なら、その親はだれでしょう？	
◇聖書に「父」と呼ばれるお方が出てきますが、誰のことだか、みんな、聖書を開いて調べてみましょう。(3人指名する) A君はヨハネ福音書6:27、Bちゃんはローマ人への手紙1:7、C君はガラテヤ人への手紙1:1を読んでください。	
→父とは、「父なる神」のことですね。私たちが「天のお父さま」と祈るときの、「父なる神さま」です。ニワトリの子はニワトリ、カエルの子はカエルです。イエスさまは、父なる神さまの子だ	

から、神さまなのですね。

→あれ？でも・・・、聖書には「神はただおひとり、他にない」と書いてあったのに、イエスさまも神さま、父なる神さまも神さまだったら、神さまが2人になってしまいますね。

□ポイント3 聖霊は神さまです

では、他にもないか調べてみましょう。

◇Dさん、使徒の働き5:3-4を読んでください。

→聖霊を欺くことは、神を欺いたことだとあります。ということは、つまり聖霊と神さまは同じということですね。聖霊は3人めの神さまでしょうか？

◇E君、Iコリント3:16を開いてください。

→私たちの体は、神の神殿ですね。その私たちの体(神さまの住む家)に、聖霊が住んでいますね。聖霊は神さまだから、神さまの家に住んで良いのです。

□結論 父・子・聖霊なる神さまは、三位一体の神さまです

じつは、聖書は、父なる神・子なるイエスさま・聖霊なる神さま、3人とも神さまだと言っています。そして同時に、神さまはただおひとりだと言っています。この「父・子・聖霊の3者とも神さまそのもの、神さまはただおひとりです」という神さまのご性質を、「三位一体」と呼んでいます。

☞「三位一体」についてももう少し詳しく見てみましょう。

- ・神はただ1つの存在ですが、このただ1つの存在の中に、父と子と聖霊なる3者の存在があります。
- ・しかし、3者がそれぞれ1/3ずつの神で、足して1つの神になるのではありません。父・御子・聖霊は、それぞれ等しく、それぞれ神そのものです。つまり、父も神そのもの、イエスも神そのもの、聖霊も神そのものです。
- ・同時に、3者はそれぞれ神そのものですが、父・子・聖霊は3つの個別の神々(複数)ではありません。ただ1つの神です。つまり、 $1+1+1=3$ のように3人の神さまではなくて、神さまはただおひとりです。

☞「三位一体」という用語は、聖書の中に出てくるものではありません。しかし、聖書の内容に適合したことばです。ですから、三位一体は、完全に聖書的な教理です。

☞ 氷⇄水⇄水蒸気のイメージでは、三位一体を表現することはできません。父・子・聖霊の3者は、様態の変化ではありません。マタイ3:16-17で、父・子・聖霊は同時に現れています。水は、氷であると同時に水蒸気であることはできません。三位一体は、「昔は父なる神の時代→キリストの時代→今は聖霊の時代」という変化ではありません。

☞ 子どもたちには、あまり難解にならないように伝えるのが良いでしょう。特徴だけシンプルに伝えるように心がけましょう。三位一体の原理については「なんとなく分かった」でOKです。「神さまってスゴイ」と思えたら充分です。私たち人間は、神さまのことを完全には理解できないのですから・・・(ローマ11:33-4、ヨブ5:9、詩篇145:3)。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

私たちの理解をはるかに超えた、神さまの偉大さをほめたたえましょう！三位一体の真理は、私たちには「なんとなく」しか理解できないかもしれません。神さまは、それだけ大きくて、私たちよりもはるかにすぐれているということです。ダビデ(詩篇145:3)も、ヨブ(ヨブ5:9)も、パウロ(ローマ11:33-4)も、はかり知れない神さまのすばらしさをほめたたえています(彼らは人生において死ぬほどの苦しみをうけた人たちです)。私たちの人生には、人間では理解できない苦しみがたくさん起こります。「どうして私がこんなに苦しまなければいけないの！」と叫びたくなることがあるでしょう(病気・ケガ・悪口・いじめなど)。そんなときも、想像をはるかに超えた神さまを賛美しましょう。私たちには理解できないけれど、「神さまがご存知だから大丈夫」と信仰によって、神さまを信頼しよう。